

耐火性能評価 申請図書作成要領

— 目 次 —

§ 1. 申請図書一覧	1
§ 2. 性能評価用提出図書 作成要領	2
§ 3. 追加検討資料 作成要領	9

§ 1. 申請図書一覧

性能評価の申請から性能評価完了後までの間に、以下に示す図書をご提出頂きます。

耐火性能評価 申請図書一覧

申請図書の種類 目的、提出時期、提出部数、作成要領	性能評価申請書	性能評価用提出図書		・指摘事項回答書 ・追加検討資料	・追加検討項目一覧表 ・指摘事項回答書 ・追加検討資料を含めた 性能評価用提出図書	最終保存図書 (参考)	
目的	申込み	委員会(受付時)		部会	委員会(報告時)	保管	
提出時期	申込み時 1週間前にデータで 当日に原紙	委員会(受付時) 開催前日の 午前中まで		部会開催日の 開催時刻まで	委員会(報告時) 開催前日の 午前中まで	大臣認定書受領後 2週間を目途に	
提出部数	1部	*1 3部	資料データ 一式	*1 3部	*1 3部	資料データ 一式	*2 必要部数
作成要領 又は書式	*3 「耐火性能評価 申請書」	*3 「耐火性能評価業務方法書」 及び 本要領 § 2参照		本要領 § 3参照		*3 「最終保存図書作成 要領」 参照	

*1 : 原則3部としますが、必要に応じて追加をお願いします。

*2 : 提出された最終保存図書については、確認印を押印後、必要部数を申請者に返却いたします。なおUHEC保管用はデータのみとします。

*3 : UHECホームページに掲載しております。

§ 2. 性能評価用提出図書 作成要領

■申請時には、以下の体裁で性能評価用提出図書を作成してください。

- ・ A 3 サイズ、左ホッチキス止め（クリップ止めでも構いません）
- ・ 表紙には、件名、申請年月日（委員会（受付時）の日付）、申請者名（会社名）、設計者名（会社名）を明記してください。
- ・ フルペーパー及び電子データにおいて、通しページを振って下さい。

■性能評価用提出図書の内容は、以下の事項を含むものとしてください。

- (1) 性能評価申請書
- (2) 建築計画の概要を記載した図書
- (3) 建築設備計画の概要を記載した図書
耐火性能に係わる計画の概要を記載した図書
- (4) 建築設計図書（平面図、立面図、断面図、防火区画図
及び建築物の各部分の詳細図、屋内仕上げ表等）
- (5) 耐火性能に係わる計画の概要を記載した図書
- (6) 耐火性能を検証するための図書
- (7) 上記の計算に用いたデータ等の根拠となる資料（試験成績書、調査報告書、その他）
- (8) その他耐火性能を評価するために必要な事項を記載した図書

■性能評価用提出図書の作成要領を、次ページ以降に示します。

（改訂履歴）

2002年05月13日制定
2004年07月25日改訂
2004年10月10日改訂
2006年11月10日改訂
2010年09月07日改訂
2019年07月01日改訂
2021年05月13日改訂
2024年07月02日改訂

耐火性能評価用提出図書 一目次及び必要記載事項

章	目次		必要記載事項	備考
1	建築物の概要	1.1 建築物概要	・建物名称／建物規模／構造種別etc	様式「建築物概要」に従い記入
			・耐火建築物に該当する理由	法第27条／法第61条／法第62条
		1.2 付近案内図	・付近案内図 (S=1/10,000程度)	原則として消防署の位置を記載
		1.3 建築計画概要	・配置計画	建築物の計画上の特色(敷地計画、隣接建物の状況)等を文章で記載
			・断面計画	階毎の主な用途を表で明示(小規模の場合は省略してよい)
		1.4 建築図概要	・平面図(防火区画図)	平面図は、1階平面図(配置図兼)・基準階平面図等代表的な階のみを示し、残りは資料末尾8章とする。平面図には防火区画を示すこと。断面図、立面図、床伏図、軸組図についても代表的な図面(建物の概要が分かる程度)のみを示し、残りは8章とする。建物規模が小さい場合は本節に全て示しても良い。
・断面図				
・立面図				
・床伏図				
1.5 設備計画概要	・軸組図			
	・防災設備機器一覧表	防災設備は明示、他は適宜記載		
2	2.1 主要構造部の概要と評価項目一覧	・主要構造部の仕様一覧表	様式「主要構造部の仕様一覧表」及び記入例(別紙)に従い記入 主要構造部の仕様の概要を代表的な図面に示す	
		・ルートC申請を行う理由		
		・評価項目一覧	様式「評価項目一覧表」に従い記入	
	2.2 耐火設計の方針 ^{※1}	・火災室の設定方法	室単位or区画単位／屋外空間の扱いetc	
		・可燃物の設定方法	告示第1433号／調査結果etc	
2.2 耐火設計の方針 ^{※1}	・火災性状の算定方法	告示第1433号／数値解析(熱収支式)／局所火災／噴出火災etc		
	・保有耐火性能の算定及び評価方法	告示第1433号／耐火実験／熱弾塑性解析／熱伝導解析etc 時間評価／耐力評価／温度評価etc		
3	3.1 火災室(区画)の定義	・平面図上に境界線をカラーで明示／室番号等	室を単位として算定する場合は境界壁及び開口部の種類も明示	
		・可燃物量の設定方針	収納可燃物量については全ての室(区画)について用途、可燃物密度、判断根拠を一覧表で示す。 固定可燃物量については室内仕上げリストに対する可燃物量の設定方針を示す。	
	3.2 屋内火災性状の算定	・屋内火災性状	算定条件 火災性状の主な影響因子(総発熱量・発熱速度・有効開口因子・可燃物表面積・燃焼支配型因子etc)	
			算定結果一覧:火災継続時間(原則として等価火災時間も明示)・火災温度分布(告示に従う場合は火災温度上昇係数 α)	
3.3 屋外火災性状の設定	・屋外火災性状	延焼線にかかる場合は、図面上に延焼線を明示し外壁の屋外火災継続時間(30分か60分)を示す		

耐火性能評価用提出図書 一目次及び必要記載事項

章	目次		必要記載事項	備考	
4	主要構造部の耐火性能検証	4.1	柱	<ul style="list-style-type: none"> ・方針 ・計算条件 ・保有耐火性能の算定 ・検証結果 	原則として建物内の全部材(主要構造部)について検証を行うこととする。安全側の仮定を立てることで検証部材を省略しても良いが、その場合には省略してもよい理由を明記すること。 認定耐火構造以外の方法を用いる場合は、必要に応じて詳細図を示す。
		4.2	梁		
		4.3	床		
		4.4	間仕切壁(非耐力壁・耐力壁)		
		4.5	外壁(非耐力壁・耐力壁)		
		4.6	屋根		
		4.7	階段		
5	まとめ(検証結果一覧)		・検証結果一覧	まとめ方によっては4章に含めても良い	
6	補足資料		・耐火実験データetc	原則として3章、4章に含めるべきものだが、ボリュームが大きい場合には別章に分けても良い	
7	耐火仕様一覧		・耐火仕様図	主要構造部(原則として柱・梁)の耐火仕様を図面(伏図・軸組図)上に示す	
8	図面一式		・建築図一式	平面図・立面図・断面図・仕上リスト・建具リストetc	
			・構造図一式	床伏図・軸組図・部材リストetc	
			・応力図	長期応力図・床荷重一覧etc	
9	耐火設計計算書		<ul style="list-style-type: none"> ・火災性状の算定 ・主要構造部の耐火性能検証 	入力値などの詳細データ及び計算過程などがわかる一覧表。 原則として3章・4章にまとめるべきものだが、ボリュームが大きくなるような場合は、詳細データを別章に抜き出し、3章・4章は結果のみの表示として良い。	

※1 3章、4章の各節初めにそれぞれ記入しても良い

注) この目次構成は、参考例であり、設計者の判断により構成を組み替えても良い

別添（法第2条第九号のニイ(2)に該当する主要構造部の構造方法）

1) 建築物概要

性能評価番号		UHEC評価-耐		性能評価年月日		年 月 日		
件名								
申込者								
設計者	一般							
	構造							
	監理							
施工者								
建築物概要	建築場所							
	地域・地区							
	用途							
	面積	敷地面積	m ²					
		建築面積	m ²					
		延べ面積	m ²					
		各階床面積	階数	床面積	階数	床面積		
			塔屋	階	m ²	階	m ²	
				階	m ²	階	m ²	
				階	m ²	階	m ²	
			階	m ²	階	m ²		
	階		m ²	地下	階	m ²		
階数	塔屋	階						
	地上	階						
	地下	階						
高さ	軒高	m						
	最高高さ	m						
	階高	m						
構造種別								
骨組形式								

主要構造部の仕様一覧表

SH-耐-A05

耐火構造とみなす建築物の部分		計画内容	使用階
間仕切壁	耐力壁		
	非耐力壁		
外壁	耐力壁		
	非耐力壁		
柱			
梁			
床			
屋根			
階段			

主要構造部の仕様一覧表 【記載例】

SH-耐-A05

耐火構造とみなす建築物の部分		計画内容	使用階
間仕切壁	耐力壁	R C 壁 (厚さ180mm~600mm)	B1F~9F
	非耐力壁	軽量気泡コンクリートパネル [ALC] (厚さ100mm)	B1F~9F
		軽量鉄骨下地壁 [LGS] R C 壁 (厚さ180mm~300mm)	B1F~9F B1F~9F
外壁	耐力壁		
	非耐力壁	P C 板 (厚さ180mm)	1F~9F
		軽量気泡コンクリートパネル [ALC] (厚さ120~150mm)	1F~9F
柱		C F T 柱 (無耐火被覆)	1F~9F
		C F T 柱 (吹付ロックウール 厚さ30mm)	1F~9F
		鉄骨柱 (吹付ロックウール 厚さ25mm)	1F~9F
		S R C 柱	B1F
		R C 柱	B1F
		免震装置 (耐火被覆あり) *基礎免震の場合は記載不要	B1F
梁		無被覆とする鉄骨梁	B1F~RF
		鉄骨梁 (吹付ロックウール 厚さ25mm)	B1F~RF
		鉄骨梁 (吹付ロックウール 厚さ30mm)	B1F~RF
		鉄骨梁 (吹付ロックウール 厚さ35mm)	B1F~RF
		S R C 梁	B1F~1F
		R C 梁	B1F~1F
床		合成床版 (厚さ100mm)	2F~RF
		R C スラブ (厚さ150mm~200mm)	B1F~RF
屋根		R C スラブ (厚さ160mm)	RF
階段		R C 階段	B1F~1F
		鉄骨階段	1F~9F

評価項目一覧表（耐火構造：建築基準法施行令第108条の4第1項第二号の認定に係わる）

基 準 (令第108条の3第1項第一号イ、ロ)	耐火構造とみなす建築物の部分	計 画 内 容	検 討 事 項	該当ページ
<p>イ 主要構造部ごとに当該建築物の屋内において発生が予想される火災による火熱が加えられた場合に、当該主要構造部が次に掲げる要件を満たしていること。</p> <p>(1) 耐力壁である壁、柱、床、はり、屋根及び階段にあつては、当該建築物の自重及び積載荷重（第86条第2項ただし書きの規定によって特定行政庁が指定する多雪区域における建築物の主要構造部にあつては、自重、積載荷重及び積雪荷重。以下この条において同じ。）により、構造耐力上支障のある変形、溶融、破壊その他の損傷を生じないものであること。</p> <p>(2) 壁及び床にあつては、当該壁及び床の加熱面以外の面（屋内に面するものに限る。）の温度が可燃物燃焼温度以上に上昇しないものであること。</p> <p>(3) 外壁及び屋根にあつては、屋外に火炎を出す原因となるき裂その他の損傷を生じないものであること。</p> <p>ロ 外壁が、当該建築物の周囲において発生する通常の火災による火熱が1時間（延焼のおそれのある部分以外の部分にあつては、30分間）加えられた場合に、次に掲げる要件を満たしていること。</p> <p>(1) 耐力壁である外壁にあつては、当該外壁に当該建築物の自重及び積載荷重により、構造耐力上支障のある変形、溶融、破壊その他の損傷を生じないものであること。</p> <p>(2) 外壁の当該加熱面以外の面（屋内に面するものに限る。）の温度が可燃物燃焼温度以上に上昇しないものであること。</p>				

§ 3. 追加検討資料 作成要領

以下の項目についてA4版で一冊にまとめて下さい。

1. 追加検討項目一覧表（下記の書式例を参考にA4横使いにて作成して下さい。）
2. 追加検討資料
3. 訂正事項（申請時の性能評価用提出図書からの訂正箇所が分かるようにして下さい。）
4. 指摘事項回答書（委員会、部会）

追加検討項目一覧表（書式例）

検討項目	検討内容	検討結果	変更内容	ページ

作成日	平成 年 月 日
-----	----------

指 摘 事 項 回 答 書

委員会・部会 第 回	日 時	年 月 日 時 分 ~ 時 分	場 所		出 席 者	評 価 員 職 担 員 当 申 請 者	
件名					出 席 者	申 請 者	
提出資料							
指摘及び検討事項（質問等も含む）			回答及び処置			該当ページ	

☆記載例

作成日 平成〇〇年〇月〇日

指 摘 事 項 回

委員会の場合は
●●委員長 以下全出席委員
(専門委員を含む)の名前を記載

委員会 (部会) 第 1 回	日 時 〇〇〇〇年〇〇月〇〇日 13時30分 ~ 15時30分	場 所	出席者	評価員 <input type="checkbox"/> 委員 <input type="checkbox"/> 専門委員
件名 △△△△ビル			職担当	申請者 <input type="checkbox"/> 会社 <input type="checkbox"/> 事務所
提出資料	1-0 委員会指摘事項回答書 1-1 □□□□に関する追加検討資料 1-2 〇〇〇〇に関する追加検討資料			
指摘及び検討事項 (質問等も含む)		回答及び処置		該当ページ
1				追加資料 2-2 P53
2				設計概要書

会社名及び出席者の氏名

箇条書きではなく、
具体的に文章 (ですます調) で
ご記入ください。

質問者の氏名は不要です。

回答は全ての検討事項等
に対して具体的にご記入下さい。

どの資料のどこを見れば
よいか、わかるように
ご記入ください。

次回の部会までに指摘事項回答書をまとめて
3部ご提出ください。
また、指摘事項回答書は部会にて担当の委員
が確認させていただきます。
指摘事項回答書は、委員会(報告時)及び最終
版図書にも提出して頂きます。